

2021年9月12日にシリル・ラマポーザ大統領が発表した 新型コロナウイルス感染防止対策に関する声明（抜粋）

- 従来株よりも感染力が強いデルタ変異株の広がりに伴う第3波は収束までには至っていないものの、この数週間における新規感染者数が継続して減少傾向にあることを受けて、9月13日より南アフリカ全土を対象とした感染警戒レベルを3から2へと引き下げる。
- 9月13日より適用される感染警戒レベル2では：
 - 外出禁止時間を午後11時から午前4時まで短縮。
 - レストラン、バー、スポーツジムといった日常生活に必須ではない施設の営業時間は午後10時まで延長。
 - あらゆる集会における収容人数の制限を屋内で最大250人、屋外で500人まで緩和。
 - 小規模会場についてはソーシャルディスタンスの確保をはじめとした感染予防対策の徹底を条件に最大収容人数の50%以内とする。
 - 前述の人数制限は宗教関連行事や政治集会、会合の他、レストラン、バー、スポーツジムとそれに準ずる施設についても適用の対象とする。
 - 葬式への参加者は最大50人までに制限し、通夜、葬儀後の催しは禁止措置を継続。
 - アルコールの販売については今後2週間の感染状況を見守りながら、月～金曜の午前10時から午後6時まで、また店内でのアルコールの提供は午後10時までそれぞれ延長。ただし公共スペースにおける飲酒の全面的禁止措置は維持。
- 先週の1日あたりの新規感染者数は先々週と比べて29%、その前の週と比べて48%減少。
- 感染の減少傾向は第3波の震源地となったハウテン州でいち早く確認されたと同時に、明らかな減少は全国的に見られている。
- 北ケープとフリーステートの2つの州では数ヶ月にわたって人口あたりの感染者数が比較的高い水準に留まっていることから、重点的な対策を講じていく。
- 高齢者の重症化、死亡率の低下に効果的なワクチン接種の重要性および安全性を強調。
- ワクチン接種会場は官民合わせて国内3,000カ所以上に拡大。民間施設では健康保険の未加入者を含めて無料で接種を進めている。
- ワクチン接種プログラムの対象は南アフリカ国籍の有無を問わず、国内に在住する全ての人が対象。
- これまでに60歳以上の人口の57%がワクチン接種を済ませており、全成人人口の4分の1以上が少なくとも1回の接種を終えたとともに、700万人以上が接種を完了している。
- 東ケープ、リンポポ、西ケープの隔週では成人の5人に1人が接種を完了しており、全土でのワクチン投与件数は延べ約1,460万回に上っている。
- ワクチン接種回数は4～5日毎に100万回を数えている。
- 南アフリカでは50日後に地方選挙が控えていることから、ワクチン接種の推進に全力で取り組んでいる。